

生活単元学習指導案

情緒障害特殊学級

知的障害特殊学級

1 単 元 秋を楽しもう

2 子どもの実態（本時に関する実態）

A児(2年男)	○ 季節を感じ取る体験学習や調理学習には、積極的な態度で取り組むが、四季に関する認識が浅い。また、進んで自然に親しもうとする態度はあまり見られない。 ○ 適切な量の接着剤を出すことは難しい。指先を使う細かい作業は時間がかかる。着色する際に使う色の種類が少ない。 ○ 写真や絵を使って活動の見通しがもてると、試行錯誤しながらだいたい一人で活動することができる。
B児(5年男)	○ 年間行事や体験学習、生活単元学習を通して、四季の特徴をつかんでいるが、自ら進んで自然と親しもうとする姿はあまり見られない。 ○ 時間がかかるが、手先を使っての細かい作業は意欲的に取り組み、最後までやり遂げることができる。 ○ 絵や写真、記号などを使って活動の見通しをもつことができると、自分から進んで取り組もうとする姿が見られる。
C児(1年男)	○ 季節を感じ取る体験学習や調理学習には、積極的な態度で取り組むことができる。また、動植物に触れ合うことも好きである。四季の区別は分かっている。 ○ はさみで切ったり、のり付けしたりすることは、細かい作業以外はできる。 ○ 絵や写真・実物で活動の見通しをもたせると意欲をもって一人で活動しようとするが、意欲を持続させるためには言葉掛けが必要である。
D児(4年男)	○ 季節を感じ取る体験学習や調理学習には、積極的な態度で取り組んでおり、行事と四季の関連をとらえられるようになってきている。 ○ 手先を使っての細かい作業は苦手だが、はさみやのりなどを使って一人で作品を仕上げるることができる。 ○ 自分なりの見通しをもつことができるまで何度も質問して確認しようとするが、見通しをもつとイメージを広げて、自分の作りたいものを最後まで作り上げようとする。
E児(5年女)	○ 季節を感じ取る体験学習や調理学習には、積極的な態度で取り組むことができる。四季の区別はついている。 ○ はさみを使っての作業は少し難しいが、その他の道具を使っての作業はよくできる。 ○ 造形活動が大好きで、自分なりのイメージを膨らませながら積極的に活動に取り組むことができる。
F児(6年女)	○ 季節を感じ取る体験学習や調理学習には、積極的に取り組むことができる。また、花が好きである。ただ、四季の区別は難しい。 ○ 時間はかかるが、はさみやのりなどの道具を使って作業をすることができる。 ○ 造形活動が好きで、教師が作品を作る手順を具体的に示し、見通しがもてると積極的に活動することができる。

3 単 元 目 標

- 秋の草花や木の実を観察・収集したり、集めた木の実や落ち葉を使って簡単な飾りやおもちゃを作ったりする活動を通して秋を実感するとともに、自然に親しもうとする態度を育てることができる。
- 店頭に並んだ秋の食材を見学したり、それらを調理したりする活動を通して、実りの秋を感じ取り、自然に対する喜びを味わうことができる。

4 本 時

(1) 目 標 (個人目標)

A・C児	見本を参考にして、写真による手順カードを見たり、教師の支援を受けたりしながら、自分で考えたおもちゃを作り上げることができる。
B 児	見本を参考にして、手順を示しためくりカードを見ながら、自分が選択したおもちゃをできるだけ自分の力で作り上げることができる。
D・E児	道具の安全な使い方に気を付けるとともに、道具の使い方を工夫したり、教師の支援を受けたりしながら、自分が考えたおもちゃを自分の力で作り上げることができる。
F 児	見本を参考にして、写真による手順カードを見たり、教師の支援を受けたりしながら、自分で選んだおもちゃを作り上げることができる。

(2) 展 開 (45分)

時間	主 な 学 習 活 動	教 師 の 支 援
(分)	1 歌を歌う。	○ 秋の代表的な歌を教師と一緒に歌うことで、場の雰囲気や和らげ、子どもたちがリラックスできるようにするとともに、活動の始まりの意識をもつことができるようにする。
(8)	2 前時までの活動を振り返る。	○ 前時の一人一人の活動の様子の写真を見て、自分の作りたいおもちゃを再度確認することで、活動の見通しをもつことができるようにする。
	3 本時の学習のめあてを知る。 どんぐりやはっぱを使って、おもちゃを作ろう。	○ 見本を見るとともに、作り方の手順を確認することで、見通しをもって最後まで取り組むことができるようにする。 ○ 道具の安全な使い方について確認したり、教師が実際に使う場面を見せたりすることで、一人一人の子どもが道具を安全に使うことができるように配慮する。
(30)	4 秋の素材を使って作る。 ・どんぐりのトトロ ・かべかけ ・どんぐりごま ・ネックレス ・松ぼっくりのツリー ・どんぐりの動物	○ それぞれのおもちゃの作り方を図や写真、製作途中の実物などで示すことで、なるべく一人で最後まで作ることができるようにする。 ☆ A児、C児については、写真による手順カードを見たり、作り方を教師に聞いたりすることで、なるべく一人で最後まで作り上げることができるようにする。 ☆ B児については、更に詳しく手順を示しためくりカードで確認したり、自分でできない場合はお手伝いカードを使って教師と一緒に作ったりすることで、活動を続けることができるようにする。 ☆ D児・E児については、作りたいおもちゃを自由に作ってよいことを伝えたり、それぞれの考えを称賛したりすることで、イメージを広げながら意欲的に活動することができるようにする。 ☆ F児については、教師によるおもちゃの作り方を実際に見て真似したり、教師と一緒に作ったりしていくことで、自分が作りたいおもちゃを最後まで作り上げることができるようにする。
	5 本時の学習について振り返る。	○ 最後に『じょうずにできたよ』シールを作品に貼ることで、一人ががんばったという達成感を味わうことができるようにする。 ○ がんばったところやよくできたところなどを聞き合うことで、互いの活動のよさを認め合うことができるようにする。
(7)	6 次の学習について知る。	○ 作り上げた作品が秋に採れる木の実などからできていることを再度確認することで、子どもたちが秋という季節感を意識することができるようにする ○ 一人一人のがんばりを称賛し励ますことで、他の作品も作ってみたいという気持ちをもつことができるようにする。